

4 月 9 日(金)-11 日(日) 千葉・幕張メッセで開催 AUTOMOBILE COUNCIL 2021

- ① 主催者テーマ展示 第 2 弾 決定
- ② 協賛社によるタイヤアッププロモーション 第 2 弾
- ③ ヘリテージカー販売店等出展車両情報 第 2 弾
- ④ プレミアムライフスタイル/アートギャラリー ゾーン出展者情報
- ⑤ 「AUTOMOBILE COUNCIL 2021 Virtual Mall」スペシャルメニュー第 2 弾

AUTOMOBILE COUNCIL 2021 実行委員会

4 月 9 日(金) から 11 日(日)、千葉県千葉市・幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2021」の第 4 弾のお知らせとして、新たに追加決定した特別展示情報、ヘリテージカー販売店等の出展車両情報(第 2 弾)、プレミアムライフスタイル/アートギャラリー ゾーン出展者情報、「AUTOMOBILE COUNCIL 2021 Virtual Mall」スペシャルメニュー第 2 弾情報をお知らせします。

<1> 主催者テーマ展示「時代を進めたラリーカーの戦闘美-2」決定

「AUTOMOBILE COUNCIL 2021」の主催者テーマ展示「時代を進めたラリーカーの戦闘美-2」として、ニッサン 4 台、スバル 2 台の追加出展が決定しました。※詳細別紙参照

<2> 協賛社によるタイヤアッププロモーション 第 2 弾

株式会社 三越伊勢丹によるタイヤアッププロモーションの追加施策として、3 月 29 日(月) から伊勢丹新宿店 メンズ館 公式メディア「ISETAN MEN'S net」において本イベントを告知します。

https://www.imn.jp/?utm_source=direct&utm_medium=referral&utm_campaign=amc2021
また、同社では、「カーライフを満喫するすべての皆様へ」と題して本イベントに出展します。ブースでは、愛車に乗っている時間を最高のモノにするアイテムと、それ以外の時間でも、傍らに愛車を感じられる、上質な時間を演出するアイテムを提案します。主な商品では、英国ライダーズブランドのオーダーブルゾン、トラベルジャケット、ドライビングシューズやレザーグローブ等幅広く提案すると共にヴィンテージカーの年代を意識したヴィンテージリカーの数々が紹介されます。

<3> ヘリテージカー販売店等出展車両情報(第 2 弾)

ヘリテージカー販売店が出展する車両情報の第 2 弾を別紙の通りお知らせします。
※出展車両は、予告なく変更される場合があります。

<4> プレミアムライフスタイル/アートギャラリー ゾーン出展者情報

プレミアムライフスタイル/アートギャラリー ゾーンでは、「クルマ」を中心とした大人の趣味に応える腕時計、スーツ、アートなどを紹介します。本年出展するギャラリーは、国内外のアートフェアで数々の出展実績を持つ「レントゲンヴェルケ」「GALLERY 小暮」「H-art Beat Gallery」の 3 ギャラリーです。各ギャラリーにより、現代アート界で高い評価を得ている作家の作品を厳選して展示します。(展示作家: あるがせいじ、桐山征士、後藤温子、KAWS、管井 汲、今井龍満 等々)

<5> 「AUTOMOBILE COUNCIL 2021 Virtual Mall」スペシャルメニュー第 2 弾 情報

Virtual Mall でしか見られない専用コンテンツ第 2 弾、特別トークショーが決まりました。マツダのルマン初優勝から 30 年。伝統と格式ある「世界一過酷な 24 時間耐久レース」を日本で最も知り尽くした元マツダワークスドライバー、「ミスタールマン」こと寺田陽次郎氏に、AUTOMOBILE COUNCIL 共同代表 加藤哲也が聞く、悲願達成までのプロセス。そしてドラマチックな総合優勝の影に隠された真実。題して「ルマンの女神に愛されるために」。ご視聴方法は公式ウェブサイトをご覧ください。

URL <https://automobile-council.com/events/ac2021>

URL <https://automobile-council.com/>

-----◆◆◆-----
この件に関する報道関係からの問い合わせ先
AUTOMOBILE COUNCIL 2021 広報事務局 担当: 石川
Tel: 090-8940-1683/050-3419-7725 e-mail press@automobile-council.com

■主催者テーマ展示「時代を進めたラリーカーの戦闘美-2」について

< '1970 ダットサン・ブルーバード 1600SSS >

日本に真の意味でスポーツセダンを根付かせた立役者が P510 型ブルーバードだった。SSSはスーパースポーツセダンの略。1.6ℓ SOHC ツインキャブ 4 気筒、ストラット/セミトラールーングアームの 4 輪独立懸架は当時としては異例に高度な設計で、「技術の日産」の面目躍如だった。1970 年東アフリカ・サファリラリーは、スタート 8 時間後から激しい雨に見舞われ、最悪のコンディションとなったが、泥沼と洪水の中ワークスブルーバードは逆に活気づき、総合 1、2、4 位でフィニッシュ。オーバーオール・ウィンに加えクラス/チームの 3 冠完全制覇を日本車として初めて達成した。今回展示されるのは、総距離 5432km、全区間を通じてのアベレージが 98.7km/h と高速に設定されたそのサファリラリーのフィニッシュラインに真っ先に駆け込んできたウイニングカーそのものである。



< '1972 ダットサン 240Z >

サファリラリーで大活躍したフェアレディ Z は、雪と氷のモンテカルロラリーでも好成績を残した。FF のミニやシトロエン DS、RR のポルシェ 911 やアルピーヌ A110 が活躍し、FR は不利と言われていた時代。名手ラウノ・アールトネン/ジャン・トッド組によって 72 年の同イベントで、ジェラルド・ラルース操るポルシェ 911 を激しく追い上げ、3 位に入賞したのがこの 240Z である。SOHC 直 6 2.4 は 220ps/7200rpm を発揮する。ニッサンの、ひいては日本車の高性能イメージを世界に轟かせた傑作といえる。ちなみにアールトネンは誰よりもテールを大きくスライドさせたドライビングを見せたが、ボディにかすり傷ひとつ負わせることなくフィニッシュし、Z のハンドリングの素直さを証明してみせたという。



< '1982 ダットサン・バイオレット GT >

510 ブルーバードや 240Z の影に隠れて目立ちづらいが、79 年から 82 年にかけて、サファリラリーで史上初の 4 連覇という偉業を達成したのがバイオレット GT だった。優勝クルーはいずれもシェカー・メッタ/マイク・ダウティ組。展示車は 82 年の総合優勝マシンで、グループ 4 チューンの直列 4 気筒 DOHC4 バルブエンジンは 230ps/245Nm を生んだ。とはいえ順風満帆に過酷なラリーを走り切ったわけではなく、リアアクスルを何度も破損しながら、激しく追い上げるオペルのアールトネン、そしてロール操るオペル・アスコナ・デュオをなんとか振り切って得た勝利だった。特にアールトネンは前年ダットサンチームに属し、チームメイトのメッタと最後まで首位争いを演じた因縁のライバル。まさに死闘と呼ぶに相応しい戦いだった。



< '1982 ニッサン 240RS >

S110 型 3 代目シルビアをベースに、ニッサンが生んだグループ B モンスタースタがこの 240RS だ。WRC デビューは 1983 年モンテカルロ。FJ24 型直列 4 気筒 DOHC 2340cc エンジン、NA 故 275ps 過ぎず、スーパーチャージャーで武装し、同ラリーを制したランチア・ラリー037 の 305ps には及ばなかったが、“エクストロドライ”と称されたコンディションにも助けられ、FR レイアウトというコンベンショナルな設計であるにも関わらず、韋駄天サロネンのドライブで総合 14 位に食い込むという侮り難い実力を見せた。実際同年のニュージーランド・ラリーでは 2 位、85 年のサファリでは 3 位に入賞する等、ポテンシャルは高かった。今回の展示車は日産名車再生クラブにより、モンテデビュー時の姿にレストアされたレプリカである。



< '1998 スバル・インプレッサ 555 WRC >

ボクサー4 気筒エンジンとフルタイム 4WD。スバルが長く培ってきたコア技術で、一時期 WRC を席巻していたのがインプレッサだ。今回展示されるのは 98 年のサンレモラリー出場車。コリン・マクレー、ピエロ・リアッティに託されたワークスカーが 2 位、3 位に入賞した際の 1 台だ。この年マクレーは第 4 戦ポルトガル、第 6 戦ツール・ド・コルス、第 8 戦アクロポリスで勝ち、ドライバーズ/メイクス両選手権をリードしたものの、その後ランサー・エボリューションを駆るマキネンに 3 連勝を許し、前年まで 3 年連続で守ってきたマニファクチュアラーズ・タイトルの防衛を逃した。とはいえ最終戦では電子制御セミ AT を導入する等、次シーズンに向けた開発に用いられたことも事実だった。



< '2008 スバル・インプレッサ WRC >

2005 年以来勝利から遠ざかっていたスバルが、希望を託して 2008 年シーズン途中のアクロポリスから投入したのが S14 というコードネームで呼ばれたハッチバックのインプレッサ・ワールドラリーカーだ。エンジン以外はすべて刷新されたといって良く、大型化されたボディはダウンフォースを向上させコーナリングスピードの増加に寄与、ロングホイールベース化はスタビリティ改善に結びついた。トランスミッションもサスペンションも新設計。S12B 型で悩まされ続けたダンパーにも大幅な改良が施された。その甲斐あってエースのペター・ソルベルグは S14 のデビュー戦でいきなり 2 位に入賞。1 年ぶりに表彰台に立ったほか、クリス・アトキンソンは最終日に最速ステージタイムを記録する等、高い戦闘力をいきなり見せつけた。



AUTOMOBILE COUNCIL 2021 出展車両（第 2 弾）

（2021 年 3 月 26 日現在）

【ヘリテージカー販売店】

出展者名	台数	車種	年式
コレツィオーネ	2 台	Ferrari F355 ベルリネッタ フィオラノ	1998
		FIAT Abarth750GT spider ZAGATO	1960
AC MINDS & Co.,	4 台	MGA 1600 Coupe	1960
		LOUTUS ELITE Sr2	1962
		LOUTUS ESPRIT	1978
		LOUTUS ELISE	1998